

SfN2025 参加記

東北大学 大学院薬学研究科
薬理学分野
博士後期課程 2 年 塩崎 裕美

2025 年 11 月 15 日から 20 日の 5 日間、私は米国サンディエゴにて開催された Society for Neuroscience (SfN) に、JNS-SfN Exchange Travel Award の受賞者として参加いたしました。初めての国際学会であり、期待と緊張が入り混じっていましたが、非常に有意義で充実した時間を過ごすことができました。

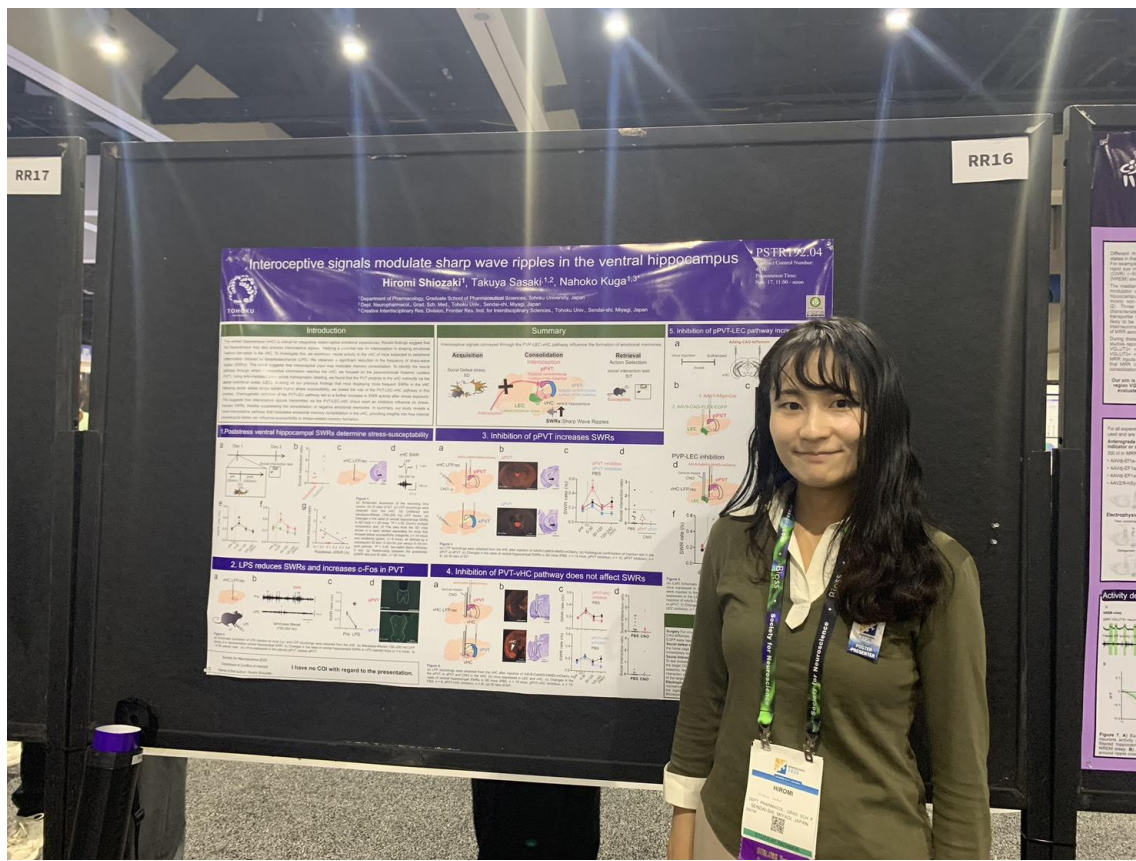
JNS-SfN Exchange Travel Award 受賞者は、International Fellows Orientation Session と International Fellows Poster Session に参加します。Orientation Session は会場の一室で行われ、日本神経科学会 (JNS) だけでなく、Chinese Neuroscience Society (CNS)、International Brain Research Organization (IBRO)、Federation of European Neuroscience Societies (FENS) など、世界各国からの受賞者約 20 名が集まりました。参加者同士で自己紹介や写真撮影を行い、国際的なネットワークを築く良い機会となりました。

International Fellows Poster Session では、参加者同士でポスター発表を行い、解析手法に関する新たな知見を得るだけでなく、自身の研究をどのように発展させていくかについて、実験手法を含め活発な議論を行うことができました。

SfN のポスター会場は非常に広く、日本神経科学大会の約 3 倍ほどの規模があります。その中を歩き回ること、興味深い研究や研究者との思いがけない出会いがありました。大会を通して多くのポスターを聴講し、発表者との議論を通じて、これまでにない視点から自身の研究を見つめ直す貴重な機会となりました。普段使用している AAV ベクターの新しいプロモーター情報やリアルタイム体温測定法など、特に興味深い技術について直接研究者と意見交換でき、文献からは得られない研究の熱量を肌で感じました。この経験は研究に対するモチベーションをさらに高めてくれました。

私のポスター発表は大会 3 日目の午前中にあり、4 時間の掲示時間の中で約 30 名の方にお越しいただきました。十分な準備をして臨んだこともあり、質問や意見に対して深い議論ができたと感じています。「面白いね!」と目を輝かせて握手をしてくださる研究者もおり、海外ならではのオープンなコミュニケーションを楽しむことができました。世界中から自分の研究に興味を持って足を運んでくださることに、感動を覚えました。

最後になりましたが、この度の JNS-SfN Exchange Travel Award を運営してくださった JNS および SfN の皆さま、そして日頃よりご指導いただいている佐々木拓哉先生、久我奈穂子先生をはじめ、多くの先生方に心より御礼申し上げます。この貴重な機会を今後の研究活動に生かしてまいります。



(ポスター会場にて記念撮影)